



周南市のまちづくり

令和7年5月9日
周南市都市整備部都市政策課

周南市の概況

【位置・地勢】

市域面積：656 km²

市街化区域+用地地域 面積：44.55 km²

人口：約134,000人 (R7.3)

半島部や島しょ部は瀬戸内海国立公園区域

海岸線に沿って大規模な工場が立地

東西に長い市街地が形成



周南市の概況

【沿革】

- 江戸時代に毛利家の徳山藩藩邸が現在の文化会館の位置に置かれ、町並みが形成
- 明治時代以降、天然の良港を活かして設置された海軍練炭製造所とともに発展
- 戦後は旧海軍施設の土地を利用して産業基盤が整備された
- 石油化学コンビナートを中心に全国有数の工場地帯に発展
- 平成15年に2市2町が合併して「周南市」が誕生

図 昭和10年の市街地

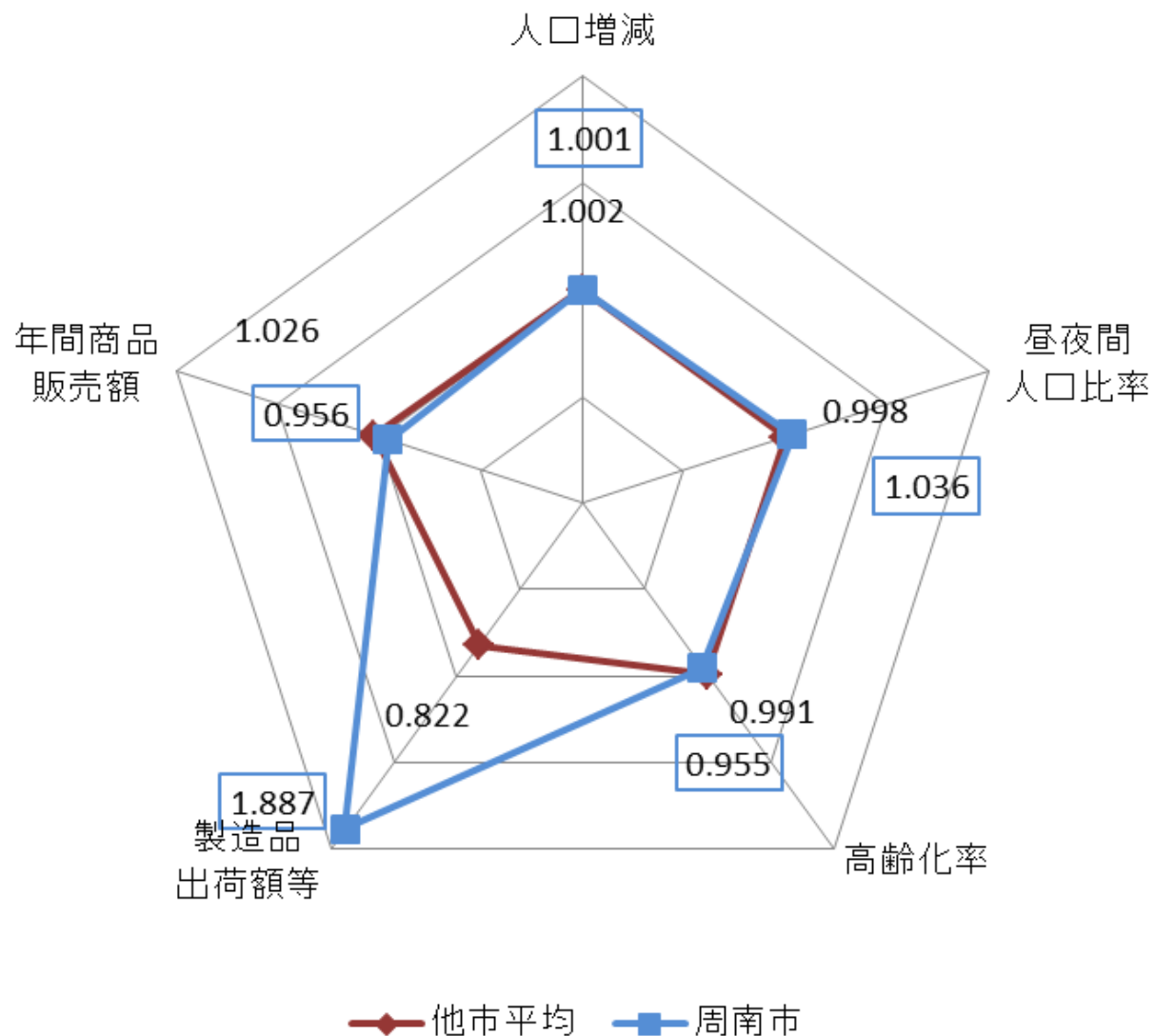


周南市の概況

【産業】

- 令和2年度国勢調査の産業別就業者数割合
第一次産業：2.6%
第二次産業：32.1%
第三次産業：65.3%
- 製造品等出荷額は山口県全体の約1/5を占める
- 小売業はJR徳山駅周辺に県下有数の繁華街が形成されていたが、企業の事務所統合、郊外大型店の影響で低迷

県内他市との比較



中心市街地の概況

【概要】

- 徳山藩の城下町として基盤が整えられた
- 海軍練炭製造所の設置を契機に工業都市化が進展
- 第二次世界大戦末期の2度の空襲により、市街地の大半を焼失
- 戦災復興土地区画整理事業により現在の中心市街地の都市基盤が形成
- 新幹線駅の誘致により広域交通結節点を形成
- 山口県最大の商業地として発展
- 平成10年代から中心市街地の空洞化が進展
- 最近では駅前図書館などで駅周辺は賑わいを取り戻しつつある



【戦災復興土地区画整理事業施行前】



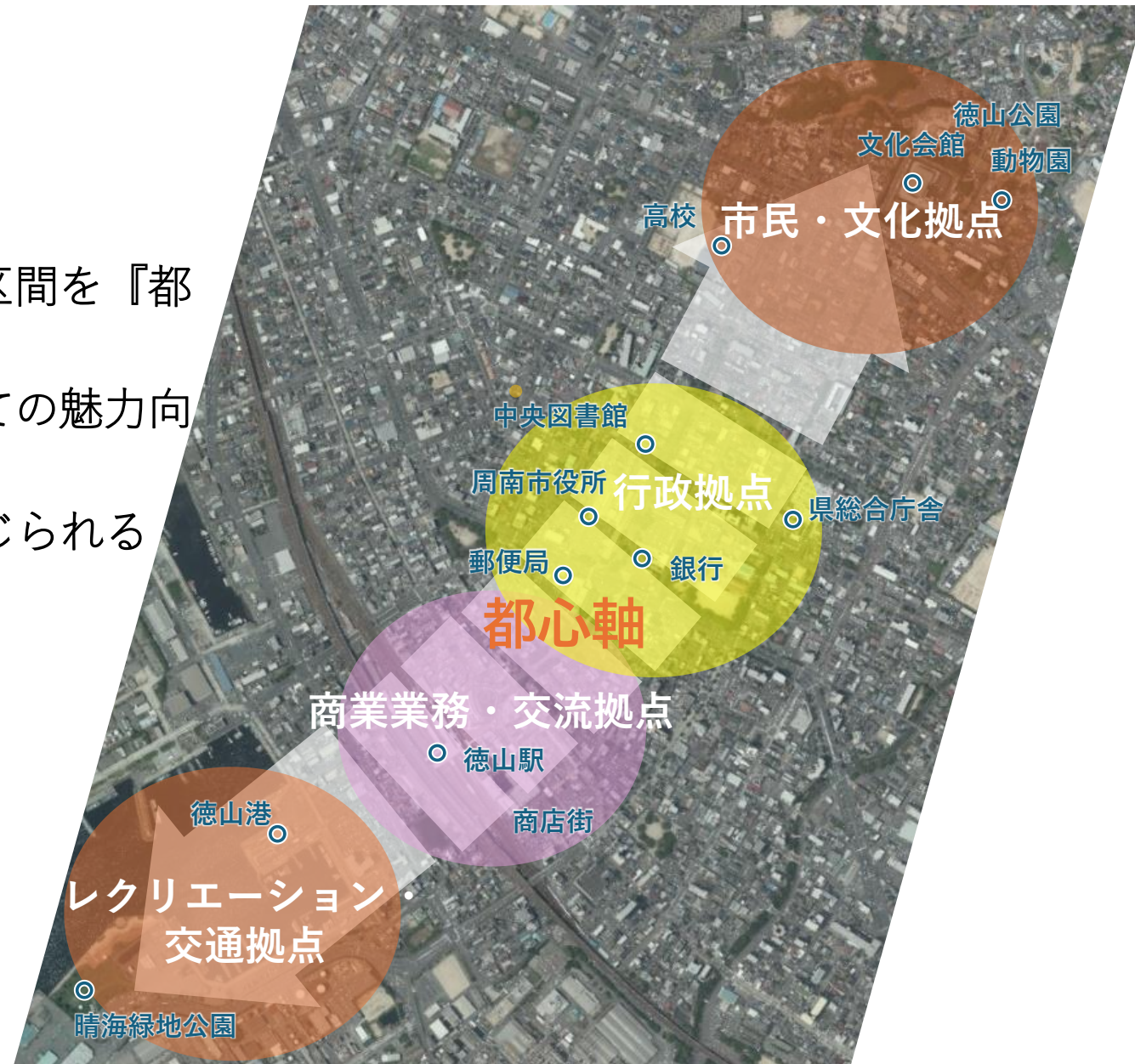
【現在の市街地】



中心市街地の概況

【都心軸】

- 徳山港～徳山駅～市役所～徳山公園までの区間を『都心軸』と位置づけ
- 周南地域の中心都市にふさわしい都市としての魅力向上を図る
- 徳山港や徳山公園周辺など自然、文化を感じられるエリア
- 駅周辺、市役所周辺の利便性の高いエリア
- 暮らしやすいコンパクトな市街地が形成
- 各拠点の強化と拠点間の連携、回遊性向上
- 都心軸全体に賑わいを広げる



中心市街地の概況

【歴史的資源】

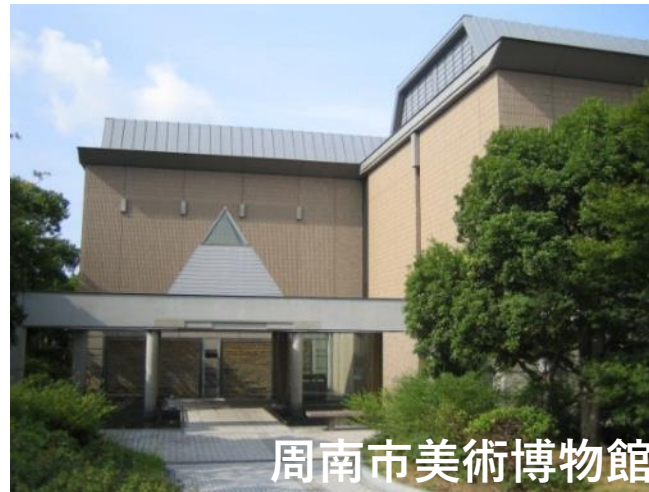
- 司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」で知られる明治時代の陸軍大将・児玉源太郎の出身地
- 大正12年（1923年）に地元有志の発起により、児玉源太郎を祭神として「児玉神社」が創建
- 神社の西側の市道内には、大正14年（1925年）に台湾から取り寄せた松の木「台湾ゴヨウ」
- 岐山通沿いにある「児玉源太郎生誕の地公園」では、「児玉源太郎産湯の井戸」を保存している
- 徳山藩邸など



中心市街地の概況

【文化的資源】

- 昭和35年に徳山動物園が約5万㎡の面積で開園
- まちなかを像を連れて歩いた記録が残っている（江戸時代）
- 年30万人の来園者があったが近年は減少傾向
- スリランカと日本の国交樹立60周年を記念し、2頭のスリランカゾウが寄贈された
- 徳山藩邸跡地に文化会館
- 美術博物館は写真家林忠彦を中心とした記念室、周南市出身の詩人まど・みちおの紹介コーナー



中心市街地の概況

【景観的資源】

- 御幸通・岐山通は戦災復興で整備されたシンボルロード
- 特に御幸通は幅50mの広幅員道路でヒマラヤスギ、イチョウなどの美しい街路景観を創出
- 桜並木の徳山港線は徳山藩時代の桜並木、鍵曲がり再現
- 瀬戸内海の島々が広がる徳山湾
- 日本夜景遺産認定のコンビナート工場夜景



中心市街地の取り組み

【最近の取り組み】

- 徳山駅周辺整備事業
- 徳山駅周辺官民連携管理運営事業
- 新庁舎建設事業
- 動物園リニューアル事業
- 市街地再開発事業
- 自動運転バス実証実験



中心市街地の取り組み

【今後の取り組み予定】

- 御幸通りニューアル事業
(道路空間再編)
- 市民館跡地整備事業
(国合同庁舎、保健センター、
山口銀行、文化小ホール)
- 動物園リニューアル事業
- 港緑地の活用
- 回遊性向上

